

令和5年度 自立活動実践力錬成塾の概要

目的

- Web会議システムを活用し、自立活動の指導に悩む教師を対象に実態把握や指導計画作成等について年間を通じた研修により、自立活動の実践的指導力の向上を目指します。

内容

- ケース児について、実態把握・指導すべき課題／自立活動の指導目標・指導内容の設定／実践の経過改善／評価の各演習をオンライン上で行います。
- 他の教員の視点を学び、新たな気づきを得ることにつながられるよう、2名の受講者に対してスーパーバイザー・サポーターを配置したグループ形式で実施します。

参加対象

- 特別支援学校教員、特別支援学級教員、通級による指導担当者。
- 年間を通して継続参加が可能な方。
- 応募多数の場合、特別支援教育経験年数5年以下の方から、先着順にて受講者を決定します。

開設コース・募集人数

- 2つのコースを開設いたします。どちらかのコースをお選びください。

Aコース

募集人数: 6名

- 受講者が普段、自立活動の指導を担当している児童生徒の中から1名をケース児として挙げ、その様子をWeb会議システムで共有します。
- 普段、指導を担当しているケース児について演習することで、日常の実践を省察でき、自立活動の指導の悩みや困りに対して直接的に答えられる演習となります。

ケース児の映像をオンラインで共有するにあたって、本人・保護者・学校からの事前承諾を得ていただく必要があります。

Bコース

募集人数: 4名

- ケース児を共有することが難しい場合、桐が丘から挙げるケース児を対象とした演習に参加します。
- 演習を通じて、自立活動の指導における実態把握から評価までの一連の流れを行う上で、どのような視点や思考を働かせていけばよいのかを学びます。

桐が丘から挙げるケース児は、勤務校で担当されている児童生徒とは、障害の種類や状態等が異なる場合があることに了承していただく必要があります。

日程 (全9回)

- 6/17 (土) 10時~12時 模擬演習
- 7/1 (土) 10時~12時 ケース検討 (実態把握・指導すべき課題)
- 7/22 (土) 10時~12時 ケース検討 (実態把握・指導すべき課題)
- 9/23 (土) 10時~12時 ケース検討 (自立活動の指導目標・指導内容の設定)
- 10/21 (土) 10時~12時 ケース検討 (自立活動の指導目標・指導内容の設定)
- 11/25 (土) 10時~12時 ケース検討 (実践の経過・指導改善)
- 12/16 (土) 10時~12時 ケース検討 (実践の経過・指導改善)
- 1/20 (土) 10時~12時 ケース検討 (評価)
- 2/17 (土) 10時~12時 ケース検討 (評価)

参加費

- 10,000円 (全9回分)。
- 体調や校務等、受講者都合による欠席の場合、参加費の返金はいたしません。
- 下記にお振込みください。

<参加費の振込先>

- 郵便振替
番号 00140-4-722070
加入者名 研究協議会
- ゆうちょ銀行
支店名 〇一九(ゼロイチキユウ)店
種別 当座
口座番号 0722070
加入者名 研究協議会

参加申込~受講までの流れ

- 表紙QRコードから必要事項を御記入ください。
- 受講決定者にはメールにて御連絡いたします。
- 受講決定後に参加費をお振込みください。参加費のお振込みが確認できた方へ、ZoomID等の配信をさせていただきます。

演習の様子

- Web会議システムは「Zoom」を使用します。事前に通信環境を確かめ、安定したインターネット接続ができる場所から御参加ください。
- Googleのツールを使用して資料提供や情報共有等を行います。御自身のGoogleのアカウントを取得してください。

演習1 実態把握・指導すべき課題

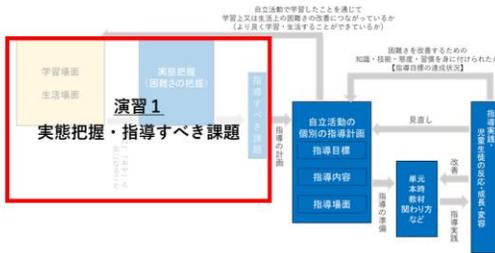
【ねらい】

- 対応や理解が難しい対象ケースの姿・行動について、その要因・背景に何があるのかを探ること、そうならざるを得ない理由を抱えているという深い対象理解を図り、真に必要な指導・支援をグループで検討する。

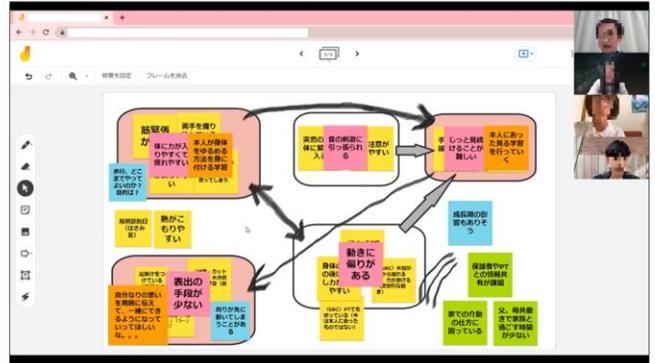
【進め方】

1. 対象ケースの学習場面や生活場面における、「あれ」「おや」と感じる様子を事前に撮影しておいてもらい、その映像をオンライン上でグループで視聴する。
2. 各自が「あれ」「おや」と気になったことをオンラインホワイトボード機能の付箋機能から記入する。
3. 記入した付箋を出し合い、似たものをまとめてタイトルをつける。
4. まとまりとまとまりの関係を考えながら、矢印や言葉を添える。
5. これまでの検討をふまえて、課題(=つけたい力)を記入する。各自記入したことを出し合う。

自立活動における授業づくりの流れ



演習の様子



受講者の感想

- 「あれ?」「おや?」という点と点が線になり、対象児の課題の捉え方が明確になっていくプロセスが視覚的に理解でき大変勉強になった。
- R3 • 同グループの先生方との会話の中にも、たくさんのヒントがあり、課題解決への学びを深めることができた。
- 生徒の困難さに対して見えていない背景、理由を考え、言語化していくことの大切さを学びました。
- 自分で気付かないことでも多くの先生方から見て頂くことで新しい気付きがある。
- R4 • 自分は「こう思う」という先入観が意外と存在しており、こういった思い込みを再度考え直す機会としてもとてもありがたい取り組みだと感じています。

演習2 自立活動の指導目標・指導内容の設定

【ねらい】

- 演習1で捉えた指導すべき課題をふまえて、対象ケースの自立活動の指導目標・指導内容を検討する。
- 話し合いを通じた気づきから、勤務校で作成されている個別の指導計画について、見直しを図る機会につなげる。

【進め方】

1. 指導すべき課題の実現に向けて、自立活動の指導でどのような知識、技能、態度、習慣を身に付ける必要があるかを各自が記入し、グループ内で意見交換を行う。
2. 1で挙げられた事項に照らして、対象ケースの現在の様子を整理する。
3. 1と2をふまえて、今年度の自立活動の指導目標をグループで検討する。
4. 3で検討した自立活動の指導目標の達成に向け、具体的な指導内容のアイデアをグループで出し合い、意見交換を行う。

自立活動における授業づくりの流れ



演習の様子



受講者の感想

- 先生方とお話する中で、重点的に指導すべき課題や取組をより良くする方法が明確になっていく過程を体験することができました。
- R3 • 児童のことをよく知っているからこそ、見えなくなっていることがたくさんあったので、児童のことを全く知らない先生から客観的な視点で見ていただくことが自分の学びにも繋がり、児童の成長にもつながると感じた。
- 週明け、早速やってみたい、できそうと思うアイデアをたくさんいただき、ありがたかったです。ようやく、具体的にどんな力をつけて欲しいのかが見えてきたように感じました。
- R4 • 自分が気付いていない視点でたくさんの課題が見つかった。憶測を含めず、映像から見て分かることだけを出していくことで、純粋な身体の動きについて考えることができ、とても勉強になった。

演習3 実践の経過・指導改善

【ねらい】

- 演習2で検討した自立活動の指導目標・指導内容を勤務校で指導実践した際に、不安や悩みを抱いた場面を映像で共有する。
- よりよい指導に向けて、どのような改善や工夫ができるかをグループで話し合い、勤務校での指導実践に生かせるようにする。

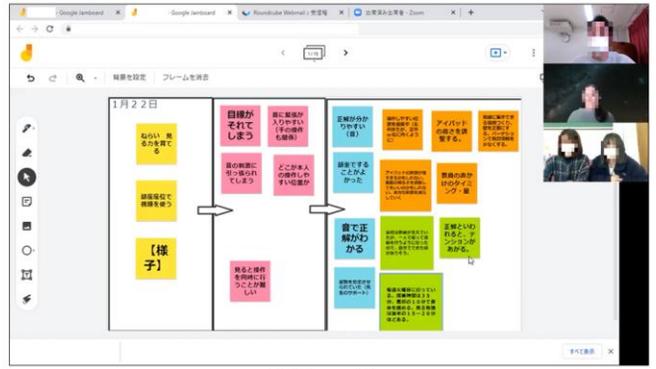
【進め方】

- 対象ケースに対して勤務校で自立活動の指導を行っている中で、これで合っているか分からなかったり、手ごたえをあまり実感できなかったりする場面を事前に撮影しておいてもらい、その映像をオンライン上でグループで視聴する。
- 映像場面における自立活動の指導目標・指導内容を説明した後、授業者として困っていることをグループのメンバーと共有する。
- 1と2をふまえて、指導に関してよい点や改善点として感じたことを各自が記入し、グループ内で意見交換を行う。

自立活動における授業づくりの流れ



演習の様子



受講者の感想

- 指導している児童の動きが最近受動的になってしまい、指導に悩むことがあったが、動画を共有してたくさんの方の指導のアイデアをいただいたので気持ちがとても楽になった。
- R3 感覚的に行っている事について、スーパーバイザーの先生が丁寧に聴きとったり、質問して確認したりとまとめていただけるため、情報を整理する事ができました。情報が整理されると、次のステップや課題について考えを拡げることが出来るというを実感できました。
- R4 現場の巡回相談に行くとき、よくこの具体的な指導内容だけを教えてほしいという教師のニーズが高いように感じる。でも、実際に6月からじっくり考え、11月により具体的な指導内容にきついたこの感覚を忘れないようにし、他の事例に携わる時もその子の背景や中心課題から「ぶれない」ことを大切にしていきたいと思う。

演習4 評価

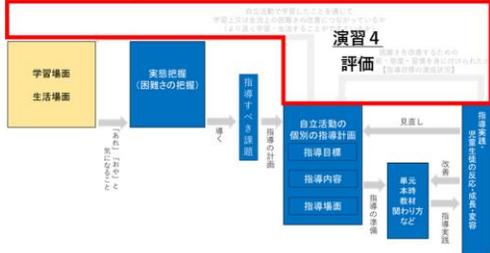
【ねらい】

- グループ内の他者の視点をふまえて、今年度の自立活動の指導の評価を確かめたり、見直したりする。
- 次年度への引継ぎという観点から、どのような意図で今年度の自立活動の指導を計画・実施してきたかを整理する。

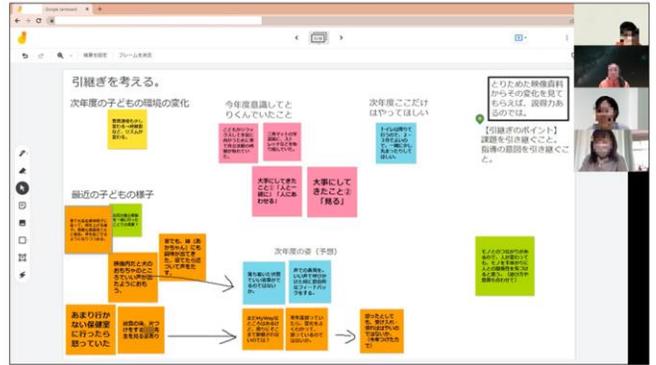
【進め方】

- これまでの演習を振り返りながら、今年度の自立活動の指導をどのように計画・実践してきたかをグループ内で共有する。
- 対象ケースについて、設定した自立活動の指導目標を概ね達成していると判断できる様子や、学習場面や生活場面で見られていた困難さが改善していると判断できる様子を事前に撮影しておいてもらい、その映像をオンライン上でグループで視聴する。
- 1と2をふまえて、対象ケースの成長や変容を感じたことを各自が記入し、グループ内で意見交換を行う。合わせて、効果的な指導の工夫や必要な配慮点等、引継ぎ事項を整理する。

自立活動における授業づくりの流れ



演習の様子



受講者の感想

- 多くの先生に授業の様子を見ていただいてご意見を聞くのは、客観的に授業を見ることができると子どもの成長した部分の発見に繋がると感じた。
- R3 1年間を通して、グループのチームワークのようなものも感じます。こんな風に日々、指導の方法等に悩んでいる先生が、ぼろっと相談できて、一緒に考えることができ、心が少しホッとするような体制を学校でどのように展開していけばよいかと考えさせられました。
- R4 変容や成果が分かる動画の準備をする段階で、今年度どのようなことに取り組んだか、どのような成果が見られたかを自分で見つめ直す時間ができた。また、その姿を誰かと共有できたことがとても大きな学びだった。自分では気付かなかった変化を見つけてもらうこともでき、自信ややる気にもつながった。

全演習終了後の受講者の感想

- グループの先生方をはじめ、各地の先生方と繋がれたこと、本当に感謝しています。また何かしらの形で関わり、一緒に子どものために考えられる、子どもの成長を喜びあえる「仲間」がいると思うと心強いです。こういった継続・追跡的な実践研究の機会がすごく限られてきているので、本当にありがたかったです。
- 参加者もSVやサポートの先生方も皆さん真摯に事例に向き合っていてコメントをくださるのでたくさん学びがあった。
- 自立活動に必要なことを、見取りの段階から丁寧にご指導いただきありがとうございました。4月から付箋を利用し、担任する児童の指導に活用する予定です。